

ホーム名：医療法人明生会グループホーム片町苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくり、管理者が率先垂範し具現化に努めている。理念は各フロアに掲示し、全職員で共有し、来訪者にも認知していただいている。風土の醸成が今後の課題である。	1. 家庭的な生活 2. 残存能力を活かした生活 3. 尊厳ある生活の重視 4. 楽しみの提供 5. 安心感の醸成 6. 地域社会とのつながり の6項目を理念に掲げ、各フロアエレベータホールユニット入口に掲示されている。入職時に説明し、周知を図っている。	理念の実践について、時にはフロア会議などでも話題に取り上げ、日々の支援を振り返ってみたい。6項目を凝縮した言葉を考えられるとホームの理念として来訪者にもなお一層分かり易い。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な挨拶は勿論、自治会の催し（地車、盆踊り、地藏盆等）参加させて頂き、また運営推進会議のご参加を頂いたり1年を通してお付き合いを頂いている。	事業所として自治会及び老人会に加入している。運営推進会議には地域代表として、自治会の会長・副会長の出席をいただいている。祭り時には、2階3階各りビングで花笠踊りの披露があり、ご祝儀を渡すなど交流を楽しんでいる。	防災・防犯に関し、自治会とで「地域で協力し合う」体制作りが進んでいる。地域に貢献できる事業所として今後も繋がりを大切に、地域に貢献出来る事業所として交流を続けていって欲しい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方より高齢者についての相談を受けたり、自治会役員が地域防災に対し熱心であり、大規模災害などにおいては、医療法人であることなどから様々な根拠で地域と連携が取れるため現在、協力関係を構築中である。	/	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	双方向のコミュニケーションが図れることで、地域に開かれた事業運営への理解が深まってきている。ご利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる環境を共に作っていきける体制が整いつつあり、サービス向上に大きく寄与している。	毎回、自治会の会長及び副会長・地域包括支援センター職員の参加を得、開催されている。平日の午後開催と言う事もあり、家族の参加は毎回は得られていない。出席者からはホームの取り組みに関して質問や提案などが寄せられ、自身の濃い会議内容となっている。	会議の開催日が隔月第4木曜日と決められている為、どうしても家族の出席率が低くなってしまふ。時には家族の参加が得られ易い日に開催してみても如何か。今回の外部評価結果に関しても、議題にのせて頂きたい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	積極的に主に市や区などを訪問し、連絡を密にとり、最新情報や必要に応じ助言・指導を賜ることで、ご利用者様へのよりきめ細やかな支援に努めている。	地域包括支援センターの職員には毎回運営推進会議へ出席いただき、ホームの様子や実情を目にして頂いている。市(高齢福祉局)へは、わからない事など直接顔を合わせ、助言・回答を頂いている。	事業所としては普段から顔を合わせる事に重きをおき、相談等していると言う事である。今後も協力関係を築きながら取り組んでいって欲しい。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	開所当初より玄関入口に至るまで身体拘束を行わない状況は保たれており、事業所独自の方針、マニュアルを整備し、全ての職員への意識啓発を行っている。今後も、内外研修受講の機会を積極的に設けていくことで、職員への啓蒙活動を継続的に実施し、意識レベルの底上げを図っていきます。	職員の意識や理解を深める為に、今後研修を充実させていく予定である。現在、玄関入口、2階・3階入口とも鍵はかけていない。	今後も、研修などを通して様々な具体的な行為について話し合い、身体拘束をしないケアに対する意識向上を図っていって欲しい。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一部の職員は外部研修にて学ぶ機会を設けている。他の職員においても認識を深めることができるよう、研修で配布された資料等は自由に閲覧できるようにしている。また、EV内にポスターを掲示するなどして啓蒙活動を行っている。	/	/	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長、ケアマネージャが社会福祉協議会主催の実践者研修などを受けたり、一部の職員は外部研修で学ぶ機会を持っており、状況に応じてそれらをご利用者様の支援に活かすことができる。	/	/	

9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書、利用約款を用い口頭で詳細な説明を行い、理解・納得を得ている。また、解約の際も利用者や家族等の心身の状況、希望等を勘案し、必要な援助を行っている。</p>		
10 6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常コミュニケーションの中で、ご意見・ご要望を収集し、運営に反映させるよう努めている。また、代表者や法人事務員、往診歯科医等の外部者へ胸中を吐露できる環境や、各階EVホールに意見箱を設けることで、直接職員に口頭では言いづらいことを文書でお知らせいただける体制を整えている。</p>	<p>各フロア入口に「意見箱」を設置しているが、来苑時など顔を合わせての口頭による事が多い。運営推進会議時にも意見や要望等出される。 ・受診時の付き添いに関して ・ホームでの日々の生活状況を知りたい 等寄せられた。</p>	<p>「意見箱」の設置や、管理者の人柄により、意見や要望等出し易い雰囲気作りが来ている。意見や要望及び対応に関しては、運営推進会議時や便り等の中で家族全員に公表し、更なる信頼関係・ホームの質の向上へと繋げられたい。</p>
11 7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>日常コミュニケーションは勿論のこと、全体会議、フロア会議、個人面談等の機会を設け、必要に応じそれらを反映させている。</p>	<p>管理者は普段から職員との意思疎通を図る事を心掛けており、声かけなど積極的に行なっている。会議や面談、又日々仕事の中で意見や提案など聞く機会を設けている。</p>	<p>今後も、意見・要望・提案など言い出し易い雰囲気作りに努め、それらを反映させていっていただきたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、日常的に全職員が向上心を持って働いているかの現状把握に努めている。また、必要に応じ個人面談などの機会を設け、職場環境や条件の整備を検討している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修においては、全ての職員を対象にしたカリキュラムとなっているが、外部研修においては、受講頻度が高い職員が限定されている為、今後は更に全体の知識や技量の底上げが図れるよう、受講対象者の門戸を拡大していく。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>相互訪問実施や、全国認知症グループホーム協会のホームページなどから情報収集し、サービスの質の向上に繋げている。今後、同業者とのネットワークを構築することで、更なるサービス向上を図っていききたい。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>お問合せ、見学時から、受容・傾聴の姿勢を保ち、ご利用者様が抱えていらっしゃる不安材料をひとつでも多く吐露して頂くことで、打開策などを模索し提案することで、ご本人の安心感に繋がる関係が初期の段階で築けるように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>お問合せ、見学時から、受容・傾聴の姿勢を保ち、ご家族様が抱えていらっしゃる不安材料をひとつでも多く吐露して頂いている。また、打開策などを模索し提案することで、先ずはご家族に安心して頂き、ご本人の安心を確保するための関係が初期の段階で築けるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>状況に応じて、適切なサービスの紹介や申込の支援などもしている。</p>		

18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活の中で様々な事柄を共有し、教わり、学び、支えあう関係を築いている。それらを、日常生活や行事などを通じてご利用者様や職員で共有している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族等来苑時は勿論のこと、電話や定期的に郵送しているお手紙などで、ご利用者様の状態を伝える等、積極的に情報交換することで、共にご本人を支えていくという関係を築いている。また、行事などへの参加を頂き家族として介護に参加して頂いている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>施設入所が理由で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、面会や外出のご希望には極力お応えできるよう支援している。</p>	<p>近所に居住されていた入居者も多く、初詣などは馴染みの神社に出かけている。たまに知人などが訪れる。馴染みの場所などへの外出は、家族の手助けを得るなどして応えてあげたいと考えている。</p>	<p>職員数の関係などで難しい時もあると思うが、入居者の希望に叶うように支援の努力をお願いしたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日常的に利用者同士の関係を把握し、職員見守りの中で利用者同士の関係が心地よくなるよう支援している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>継続的に利用者や家族には手紙を送付したり、面会に行くなどの支援を行っている。また、サービス終了時にはいつでも立ち寄っていただけるようご本人やご家族に声をかけている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	<p>○思いやり意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日ごろから、ご本人の表情や行動を観察し、想いを汲み取るよう努めている。本人の想いに沿った対応ができるようご家族から情報を得たり、担当職員などで検討し支援している。</p>	<p>各入所者毎に職員（担・副担）をつけ、かかわりを深く持つようになっている。1ヶ月に1度、個別に過ごす時間を設けており、外でのコーヒータイムなどで苑の中では聞けないような事も話ができ、ニーズも聞き取れている。</p>	<p>管理者は入居者が活躍していたときのことを職員に伝えている。入居者と個別に過ごす時間は、その背景を心にとめて接することで、入居者の思いにより深く寄り添うことにつながると思われる。それらの思いや意向については全職員も共有されたい。</p>
24	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>契約時、ご本人やご家族からのお話を傾聴し、生活歴の把握に努めている。入所後は、個人のケースファイルにご意向を含めた情報やケアプランを通じた経過観察などを記録し、全ての職員が共通の情報を把握できるよう努めている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個人のケースファイル記録や職員間のコミュニケーションによる情報交換を通じ、一人ひとりの暮らしの現状を総合的に把握するよう努めている。</p>		
26	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人、ご家族、計画作成担当者、職員、主治医、担当看護師などが、それぞれ意見を出し合い、その要望・意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>「個別申し送りノート」を参考に、フロア会議の中で個別の状況を加味しながら作成している。月2回、家族同伴での定期受診をしており、医師・看護師からも用紙に書いていただき作成している。</p>	<p>月2回定期受診している事により、医師・看護師の意見も反映されている。今後も、個々に合った介護計画を作成していただきたい。</p>

27	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子やケアの実践などに関しては詳細に日誌やカルテ、ケアカンファレンス等で情報共有しており、職員によってバラツキのないケアの実践や介護計画の見直し時に活かしている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>「医療連携」や「個別ケアサービス」などご本人やご家族の状況に応じて柔軟なサービスを提供できるよう支援している。</p>		
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域自治会の役員の方々と日ごろから連絡を頂き、地域の行事や婦人会が開所されている「ふれあい喫茶」などへお誘いを頂いたりしている。</p>		
30 11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>契約医療機関が同法人の救急指定病院ということもあり、入所時にかかりつけ医の変更を希望されるケースが大半を占めていることもあり、かかりつけ医と事業所の間には盤石な連携体制があり、24時間いつでも適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>殆どの入居者は契約提携病院をかかりつけ医に移行しているが、昔からの疾病のある入居者は引き続き元の医院を受診している。定期健康診断は月に2回家族が付き添うが、職員も付き添うことがある。</p>	<p>本ホームは医療法人の運営のホームということもあり連絡提携関係は出来ている。精神科の受診は専門の病院を受診して対応している。今後とも高齢者の病状急変などに適切な対応を継続されたい。</p>
31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>日常の関わりの中でとらえたタイムリーな情報や気づきを、申し送りシートなどを通じ、各フロアの看護職員に伝達する体制を整備しており、日常的に適切な看護が受けられる体制を整えている。また、看護職員が契約医療機関とのパイプ役となり、通常時はもとより、特に状態悪化時における主治医との連絡・調整を行える体制がある。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>お見舞い等の機会を設け、ご本人やご家族の不安解消を支援している。また、病院関係者との連絡を密にし、情報交換をすることで、退院後も切れ目のないケアの提供に努めている。</p>		
33 12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に「延命に対する意思決定書」を用い、看護師などが口頭で詳細に説明を行い、入所後の対応についてご家族の明確な意思が確認できるようにしている。また、「延命に対する意思決定書」の見直しや変更など、個別面談時などの機会を通じ、都度相談に応じる体制は整えている。</p>	<p>重度化したときの「延命に対する意思決定書」にもとづいた終末医療看護を行うことにしている。終末の看取りは病院において行うことを前提にしているが、「看取り指針」も作成し、事業所内の医療行為の範囲内で、医療機関との連携、看護職員の24時間連絡体制を確保（オンコール体制）の下ホーム内看取り体制を構築している</p>	<p>「延命に対する意思決定書」を作成し、家族の要望を聞いている。またその意志の変更・見直しに対応することも決めている。ホームでの看取り体制も細かく定義している。家族の協力は欠かせないことも伝えている。そのことで家族との意思の疎通も出来ていると推察する。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>内外研修を通じ学ぶ機会を設けている。また、ヒヤリハットを通じケーススタディーすることで、より実践に則した知識などのブラッシュアップに努めている。</p>		
35 13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防機関に参加していただき避難訓練（内1回は夜間の避難）を実施しており、消防機関からの助言に基づきブラッシュアップを行っている。また、自治会を通じ取得した地域の災害対策情報や非常口・避難経路・避難方法等を職員に定期的に周知することで、不測の事態に備えている。</p>	<p>年2回の消防訓練を消防署の指導を得て行っている。火災時は屋外階段、防煙区画に退避し、レスキュー隊の救出を待つとの消防署の指導を受けている。地域の避難場所はホームからも近く地域の協力も得られる。</p>	<p>当ホーム事務局長は30年以上消防署との関係が出来ていて細かいことも職員に指示できる。職員に救急時の連絡の仕方などミニ訓練などもしておきたい。備蓄品は準備出来ている。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての職員が、内外研修で人格の尊重やプライバシーの確保に関して理解を深める機会を持ち、実践している。	法人研修や外部研修で職員にはプライバシーの確保、入居者の尊重を教育し、日々の業務の中でも管理者が自ら実行し指導している。	プライバシーの確保・人格の尊重とは、入居者に嫌な気持ちや恥ずかしい思いにさせないことである。研修や指導を受けて知っていることが実行できているかとの観点で今後とも研鑽を積んでいただきたい。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受容・傾聴・共感の姿勢を心掛け、ご本人の意向を伝え易い雰囲気作りに努めている。また自己決定できるような積極的な働きかけを行っている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望やその日の体調を考慮し、散歩やレクリエーション、家事手伝いなど、一人ひとりが楽しく穏やかに過ごすことができるよう支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じ衣替えを行い、本人が選んだ衣服を着ていただいている。また、希望者には希望の理美容店に通えるよう支援している。		
40	15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切る、混ぜ合わせる、盛り付ける等、利用者と職員が協働で楽しみながら食事の準備を行うことで、食事が楽しみなものになるよう支援している。	食事はほぼ完成したものが業者から届けられ、ホーム内で少々手を加えて盛り付けをする。出来る入居者には手伝ってもらう。朝食・行事食はホーム内で作っている。朝食はご飯食だけでなくおかゆ・パンと変化をつけ、希望にも添っている。公園にお弁当持ちで外出することもある。	高齢者の最大の楽しみは食であるとも言える。夫々の好みもあり難しいけれど、楽しい食事となる支援の継続をお願いする。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は利用者様ごとに記録し、状況を把握しながら、栄養補助剤やアルカリイオン飲料水などで不足分を補うなどの支援を行っています。また栄養バランスに関しては、法人の管理栄養士の助言を得ながら調整しています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、ご自身でケアできない場合や、磨き残しの支援など一人ひとりの状態に合わせて行っている。また、定期的な歯科医師の往診があり、個別でアドバイスを受け実践している。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、適宜職員から声かけや誘導を行い、本人が不快とならないよう排泄の支援をしている。	一日の生活表でリズムをつかみ個人表を作成。排泄の自立への業務改善委員会を作って取り組んでいる。入居者に負担の少ない排泄の模索を行っている。	排泄の自立はだれもの願いである。業務改善委員会を作り排泄自立の支援を探求されていることは大変意義深く評価できる。必ずや大きい成果が出るものと期待する。
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況や下剤服用の把握、十分な水分摂取と献立の工夫、散歩や体操で身体を動かすなどで働きかけを行ったり、腹部マッサージを適宜行うなどの支援を行っている。		
45	17 ○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思確認を行い、1対1でゆっくりコミュニケーションをとりながら楽しく入浴していただけるよう支援している。	入浴は最低でも週2回は入っていたできるように支援している。そのためバイタルチェックや入居者が入浴の気分が整った時が晩になったため、たまに晩の入浴になる時もある。個浴の湯は毎回換えている。介護度が重い入居者はデイの機械浴を利用する。	1対1対応でゆっくりと入浴出来ることで、入居者の心身はリフレッシュされていると考える。楽しい入浴時間となるような支援を今後ともお願いする。

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>職員が、個々の生活習慣を把握し、声かけを行うことで、利用者一人ひとりの生活リズムを整え、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>各利用者が服用している薬情報ファイルを作成し、職員全員で情報共有しており、症状などを個別に記録している。なお、服薬管理は各フロアの看護師が行っている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者の残存能力を活かし、調理、後片付け、洗濯物整理などの役割を持っていただくなど、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物・散歩などを通じ、生活リハビリ・日光浴・外気浴等を随時行うなど、希望に沿って外出できるよう支援している。</p>	<p>ホームは都会の真ん中にあり、買い物に行くことが外出になっている。冬季は外出の機会も少なかったがこれからは外出も増やしたいと管理者は考えている。</p>	<p>管理者は、足腰の鍛錬のためにこれからは外出を増やしたいと考えている。外出すると五感を刺激し入居者もよそ行き顔になり心身の鍛錬にもなる。今後の計画の完成を期待する。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>可能な限り本人にお金を持っていただけよう支援することで精神的な安定を図り、利用者の力やご希望に応じた支援を行っている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者によっては携帯を所持されており、ご家族などに電話されている。また、携帯を所持されていない利用者に対しては、ご家族に確認の上、ホームの電話でお話していただいている。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食事や「くつろぎ」の時間などリビングにてご利用様が若いころのCDなどを流し、ご利用者様同士のコミュニケーションのきっかけとしている。また、毎月の行事に合わせ担当者が掲示物をご利用様と作成し掲示している。</p>	<p>リビングは広く、フロア中央のベランダを囲むように居室が配置されている。壁には入居者の書作品・貼り絵が掲示されている。リビング・共用空間の掃除は外部の専門職がしている。</p>	<p>リビングの広さは申し分ない広さである。事務機の場所、テーブルの配置を換えて、折角の広いリビングを充分活用されたい。一人になる居場所の位置なども検討され、更に趣きあるリビングにすることを入居者とともに職員皆で考えて見られたい。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングは、ダイニングテーブルと椅子、ソファを配置し、入居者同士で談笑したり、TV観賞するなど、入居者のくつろぎの場となっている。また、ベランダやEV前にソファを配置し、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には使い慣れたなじみのものや本人の気に入りのものを持ち込んでいただいている。また、安全に配慮するなど本人が居心地良く安全に過ごせるよう工夫している。</p>	<p>居室は広い。夫々思いのものを持ち込まれている部屋ばかりではないが、大方は自分の部屋として住み慣れた部屋として設えられている。</p>	<p>ずっと住み続けてゆく部屋として思い出に囲まれているか、生活観のある居室となっているか、との視点で未だそこまで出来ていない入居者にはホームとして何か補ってあげていただく支援を期待する。カレンダー・時計は必須である。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーに配慮しており、車いす、歩行器等の通行に支障のない幅員を確保し、滑りにくい塩ビシートにて転倒の未然防止にも配慮している。なお、厨房は入居者とスタッフが協働できるスペースとレイアウトになっている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない